

2016 年度 GSK 医学教育事業助成の概要

学会名

日本神経学会

正式名称

神経内科医のための教育リソースの構築と e-learning システムの開発

医学教育事業の概要

全国どこでも使える教科書、教材画像を作成し、提供
教材はCT、MRI、筋電図、脳波、病理画像等
神経疾患診療の基本から最新情報まで e-learning を用いて教育・研修実施

医学教育事業の対象者

主な医療関係者：医師、薬剤師、看護師、その他（医学生）
対象となる医療関係者の想定人数：約 12,000 人

医学教育事業の必要性

神経疾患の診療は病歴から始まって神経診察に進み、神経生理・画像、検体検査で確認するのが基本である。糸口となる病歴や神経診察は診断に決定的な意味があるが、神経徴候や評価スケール、症候群などが極めて多岐に亘るため、専門医であってもこれらを網羅的に経験する機会は少ない。また、診察手技、所見の解釈や判断が医師によって必ずしも一致しないこともある。一方、メディカルスタッフが神経診察の意義を理解することは多職種協働による治療の質を担保する上で必要であるが、神経診察の系統的教育を受ける機会は極めて少ない。神経内科教育に必要な画像教材を提供して全国どこでも使えるようにすることは、以上の問題点の解決に有効な方策である。

医学教育事業の目的

- 1) 神経内科教育に必要な教材をどこでも使用できるように共通の画像教材を提供する。全国の医学部には神経内科講座のない場合もあり、全国共通の教科書、教材画像などを作成し提供することは、医学部での神経内科教育の質や内容を向上させることに寄与する。
- 2) 神経疾患診療の基本から最新情報まで、e-ラーニングを用いて教育・研修を行う。この e-ラーニングは、神経内科医の知識・技術の向上を主目的とするが、神経内科を専門としない医師、医学生、メディカルスタッフにも利用可能である。

医学教育事業の計画・方法等

本事業は、神経学会教育委員会が主導して行う。学会員とくに教育に従事する医師から提供を受けた教材などは、教育委員会で吟味して、神経教育に適した教材として再構成する。すなわち、画像教材分類は、CT・MRI などの神経画像、筋電図、脳波、病理画像などに大分類すると共に、神経変性疾患や免疫性疾患、脳血管障害など疾患群別に再構築する。さらには、教育委員会が主導して e-ラーニング教材の作成、専門医向けの教材、医学生向けの教材などを再構築し作成する。

これらの教材リソースは、学会ホームページからアクセスして使用できるよう整備する。専門医向けの医学教材は、専門医試験に準拠して作成する。医学生向けの教材は医学教育コアカリキュラム、医師国家試験のガイドラインに準拠するように配慮する。また日本神経学会ホームページにリンクさせる形で、e-ラーニング講座を設置する。e-ラーニング講座の設置は、神経学的診察の実技など、基本的にニーズの高いものからはじめ、各種神経疾患について診療上の必要性が高い実践的な内容のもの（神経疾患評価スケールなどを含む）を順次整備し、最終的に神経内科の主要な領域をカバーするようにする。

医学教育事業の成果に対する情報共有について

本教材リソースおよび e-ラーニング講座に関する情報は神経学会のホームページから広報する。会員以外にもリーフレット等を通じて広く周知する。また本事業の成果は臨床神経学に報告する。